

年 組 () 名前

サイン

届いたシューズで感謝

◆^{けいざい}経済的に貧しいアフリカ・タンザニアの陸上選手に、全国から寄付された中古のランニングシューズ130足が届けられました。

経済的に貧しい東アフリカ・タンザニアの陸上競技選手にランニングシューズを贈ろうと、南魚沼市陸上競技協会副会長の今井雄一さん(67)の呼びかけで全国から寄付された中古シューズ約130足が4月中旬、現地の選手らに届けられた。

(2021年5月7日
読売新聞新潟版より)

「ASANTE(アサンテ)」。届けられたシューズを床に並べ、スワヒリ語で「ありがとう」を意味する文字を表現する選手ら。今井さんは現地から届いた画像を見て、「選手たちのうれしい気持ちが伝わってくる」と笑みを浮かべた。今井さんは、旧六日町(現南魚沼市)職員だった1994年、地元マラソン大会のゲストに、ロサンゼルス、ソウル両五輪で上位に入り、瀬古利彦さん(64)のラ

イバルとして日本でも有名なイカンガーさんを招待。自宅に半月近く泊めたことをきっかけに交流を続けている。今井さんは2018年10月、イカンガーさんと東京で会った際、「タンザニアの選手たちはシューズを買いお金がない。はだして走って足を痛め、実力を発揮できず困っている」という話を聞いた。イカンガーさんが昨年4月に来日するのに合わせ、

約2か月前からSNSでシューズの寄付を全国に呼びかけると、「タンザニアの練習状況がよくなることを祈っています」といったメッセージとともに、300足近くのシューズが寄せられた。

だが、新型コロナウイルスの感染拡大でイカンガーさんの来日が実現せず、新型コロナウイルスの混乱で同国関係者との連絡もつきにくい状況に。発送しようにも、関税の負担が重くのしかかり、取り組みはしばらく進展しなかった。

今井さんはそんな折、イカンガーさんがタンザニア事務所の広報大使を務める国際協力機構(JICA)が、スポーツや教育、福祉などの関連物資を開発途上国に届ける支援事業を行っていることを知り、市陸上競技協会として応募。採択され、負担なしでシューズを輸送できることになった。

今井さんは「ようやくゴールできた気分。時間がかかった分達成感が大きい。日本人の真心を届けることができた」と喜んでい

JICAによると、4月中旬、同国の最大都市ダルエスサラーム市の国立競技場でシューズの譲渡式が行われた。シューズを受け取った選手らは「入手できなかったランニングシューズを寄付してもらってうれしい」「けがのリスクが減る」などと喜んでいっている。

式典には同国スポーツ省の副大臣も出席し、「これからもスポーツへの支援を継続していただければうれしい」と謝意を示したという。今井さんには、イカンガーさんから「シューズを集める決断をしてくれた南魚沼市、寄付してくださった日本の皆さんに心から感謝します。選手たちのハンデイキヤップがなくなり、自信と勇氣、希望を持って生きていける」とお礼の電話があった。

今井さんは「ようやくゴールできた気分。時間がかかった分達成感が大きい。日本人の真心を届けることができた」と喜んでい

- 【1】タンザニアはアフリカのどこにある国か、地図で調べましょう。
- 【2】タンザニアの選手は何に困っていたのでしょうか。説明しましょう。

【発展問題】途上国と呼ばれる国などを助けるために、みなさんができることはありますか。調べて、話し合みましょう。

17 パートナースHIPで目標を達成しよう

10 人や国の不平等をなくそう

12 つくる責任 つかう責任

